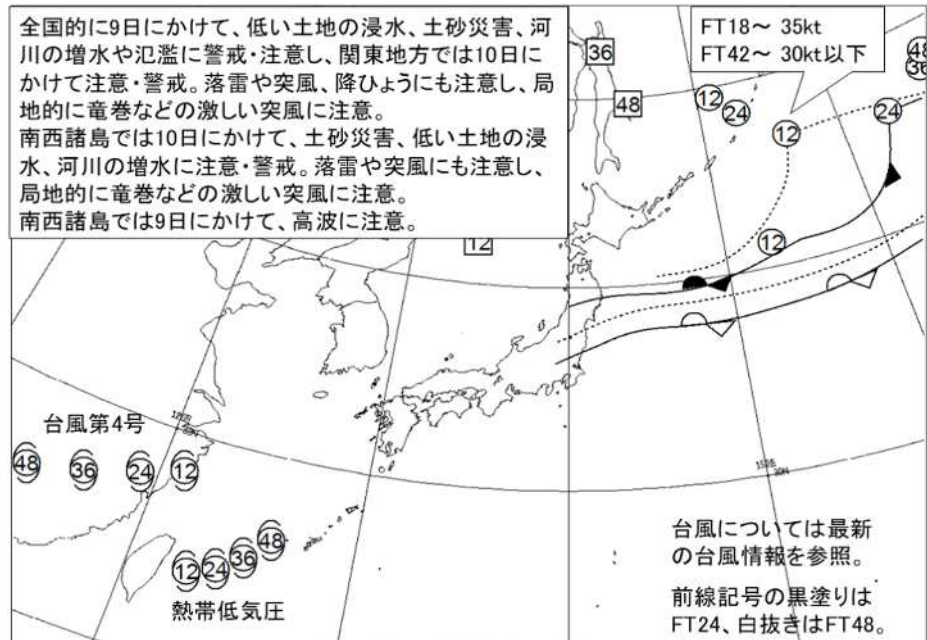


1. 実況上の着目点

- ① 台風第4号が東シナ海にあって、ゆっくり西進。台風周辺の下層暖湿気の影響で、南西諸島周辺では、1時間50mm以上の非常に激しい雨を解析し、発雷を検知。
- ② 高気圧が日本海にあって、ゆっくり東へ移動。西～北日本では高気圧に覆われ、西～東の日本の広い範囲で35℃以上の地上気温を観測。地上の昇温や下層暖湿気の影響で、北～西日本では内陸を中心に、局地的に猛烈な雨や非常に激しい雨を解析し、発雷を検知。福岡でメソサイクロンを検知。
- ③ 台風第3号は09時で温帯低気圧に変わり、日本の東を北北東進。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

- ① 1項①の台風は、8日は太平洋高気圧の影響で西進し華中へ進み、9日朝までに熱帯低気圧に変わる見込み。一方、8日夜までに先島諸島付近に熱帯低気圧が発生し北東進。台風や熱帯低気圧周辺の850hPa相当温位 345K以上の下層暖湿気の影響で、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った激しい雨が降る所がある。南西諸島では10日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。落雷や突風にも注意し、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。また、台風や熱帯低気圧の影響で、やや強い風が吹き、うねりを伴い波が高くなる所がある。南西諸島では9日にかけて、高波に注意。
- ② 1項②の高気圧は、8日は次第に不明瞭になるが、引き続き太平洋高気圧や、沿海州からオホーツク海に移動する高気圧に覆われ全国的に晴れて気温が上昇し、真夏日や猛暑日となる所がある。10日にかけて、熱中症など健康管理に注意（熱中症警戒アラート参照）。
- ③ 1項③の台風から変わった温帯低気圧は、千島近海から東へのびる前線と一体化して不明瞭化する。また、前線は、9日から10日にかけて北～東日本を南下する。前線に向かう下層暖湿流と、2項②の気温の上昇の影響で大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴った非常に激しい雨が降る所がある。全国的に9日にかけて、低い土地の浸水、土砂災害、河川の増水や氾濫に警戒・注意し、関東地方では10日にかけて注意・警戒。落雷や突風、降ひょうにも注意し、局地的に竜巻などの激しい突風に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】

- ① 雨量(18時からの24時間)：関東甲信・東海・奄美 100mm。② 波浪(明日まで)：沖縄 3m。③ 高潮(明日まで)：大潮の時期。西～東日本では注意報基準を超過する所がある。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。